

Windows環境におけるRuby

その現在・過去・未来

木村浩一

現状

- Cygwin版とmswin32版が存在している
- mswin32版のバイナリ配布は行っていない
- mswin32版の作成にはVisual C++が必要

なぜ移植したのか？

ソースを眺めていたら、途中まで作業
されていた形跡があった
gawkやmawkをいじったことがあった
なのでその延長として興味があった

作業にあたっての苦勞

- popen()の実装
- 拡張子の違い(lib、dll等)
- コンパイラーのオプション
- 構築スクリプトの対応
- 使用できるツールが限定されている

popen()

- gawkで一度実装した経験があった
- 完全にうまく動作するものはできなかった
- Visual C++のライブラリのソースを見たらドキュメント化されていないことをしていた
- あきらめて、ライブラリをそのまま使うことに

拡張子の違い

- ライブラリファイル(.a と.lib)
- オブジェクトファイル(.oと.obj)
- 共有ライブラリ(.soと.dll)

コンパイラーのオプション

- UNIX環境のCコンパイラーのオプションと Visual C++とではオプションの種類が異なる



構築スクリプトがそのままでは使えない

構築スクリプト(extmk.rb)の対応

- UNIX一般のものと拡張子が異なる
- Cコンパイラーのオプションが異なる
- Rubyが良くわかってない状態でいじくりまわした
- 本家との一般化を考えてはいたが、なおざりにしている間に小松さんが作業してくれた

使用できるツールの制限

- 実行ファイル作成に際しての手間を軽減するためにコンパイラ以外のツールはできるだけ使わないようにしたかった
- exportする関数の検出ができないため手作業が入る

Cygwin版 Ruby

- わたなべひろふみさんの手によるもの
- Windows用Rubyとして標準的なもの
- バイナリ配布がある
- win32oleにも対応

Cygwin版とmswin32版の違い

- Cygwin版はCygwinによるUNIX環境エミュレータのレイヤーになるDLLが存在し、実行にはこれが必要
- Cygwin版はUNIX環境で動くスクリプトが多分そのまま使える

WindowsでRubyを使う場面

- awk, Perlと同様の(あるいはそれ以上の)テキスト処理言語として
- win32OLE拡張ライブラリを使った「糊」言語として

Win32ole

- 助田さんによる拡張ライブラリ
- OLEによりOfficeソフト(ex. Accessデータベース)等の制御が可能
- Perlの同等の拡張モジュールに比べてよりVBAに近い表記ができる

将来に向けて その1

- 拡張ライブラリのTclTklibがうまく動かない
問題の解決
- VC++以外のコンパイラ(ex. Borland C++
Builder, LCC)対応
- Python for Windowsのような環境の構築
- Windows CE対応

将来に向けて その2

- Windows Scripting Host対応
- Internet Explorerとの連携

May the source be with you